

保護林
ミニガイド

生物多様性はぐくむ 生き物たちのよりどころ

保護林に行く

近畿中国
森林管理局が
管理する保護林



「保護林」という言葉を聞いたことがありますか？

[地図の色分け]

- 保護林
- 緑の回廊
- 国有林

近畿中国森林管理局では、管理する国有林野のうち、原生的な森林生態系を有する森林や希少な野生生物が生育・生息する森林など、生物多様性の核となる森林を「保護林」に設定し人手を加えず自然のままに維持管理する施策を行っています。

保護林は、あまたの生物をはぐくむよりどころとなり、**ニッポンの生物多様性**を支えているのです。

本ミニガイドでは、当局管内81か所の保護林の中からおススメのいくつかをピックアップし、その魅力を皆様にお届けします。あなたの「保護林に行く」きっかけに。

保護林はいつできたの？

保護林制度は大正4年に制定されました。当局管内にも、古いものでは大正初期に設定された保護林がいくつかあります。

我が国の自然保護制度の歴史をしてみると、天然記念物は大正8年、自然公園は昭和6年に始まった制度。実は近代日本において、保護林は各種自然保護制度の先駆的存在なのです。



● 森林生態系保護地域

我が国の気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林を保護・管理

- (1) 白山 (2) 大杉谷

● 生物群集保護林

地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理

- (4) 犀川源流 (5) 千丈平 (6) 上谷山
(8) 池郷 (9) 鳴川山 (10) 黒蔵谷

○ 希少個体群保護林

希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護・管理

- (12) 釈迦ヶ岳ブナ・ミズナラ遺伝資源
(13) 嵐谷天然スギ
(14) 入谷ブナ・ミズナラ・ヒノキ等遺伝資源
(15) 檜保ブナ
(16) 経ヶ岳イヌワシ
(17) 夜叉ヶ池ヤシャゲンゴロウ
(18) 黒河山スギ・ブナ・ミズナラ等遺伝資源
(19) 野鹿谷シャクナゲ
(20) 青岳天然ヒノキ
(21) ニノ俣ツガ・スギ
(22) 大又モミ・ツガ
(23) 大又トガサワラ
(24) 大又文政スギ
(25) 大杉谷ツガ・モミ・トガサワラ等
(26) 三国山湿原植物
(27) 逢坂山照葉樹
(28) 駒倉ブナ・ミズナラ
(29) 浅谷ブナ・ミズナラ
(30) 大悲山モミ
(31) 由良ウバメガンシ遺伝資源
(32) 摩耶山天然スギ
(33) 音水スギ・ヒノキ・トチノキ遺伝資源
(34) 音水モミ・ブナ・ミズナラ等遺伝資源
(35) 音水溪谷イヌブナ・ミズナラ
(36) 赤西スギ・トチノキ・シオジ等
(37) 四ヶノ仙奥山高地湿原植物等
(38) 木地屋敷ブナ
(39) 水山ブナ・ナツツバキ
(40) 金剛山ブナ
(41) 入谷ブナ・ツガ・ウラジロモミ
(42) 天川水生生物
(43) 北股暖地性昆虫生息地
(44) 西ノ河モミ・ツガ遺伝資源
(45) 西ノ河ツガ・ブナ
(46) 高野山コウヤマキ
(47) 大越モミ・ツガ・アカガシ等遺伝資源
(48) 大塔山照葉樹林
(49) 大塔山モミ・ツガ・ブナ
(50) 亀谷ツガ・ブナ

※令和6年4月1日現在

「保護林」という言葉を聞いたことがありますか？

[地図の色分け]

- 保護林
- 緑の回廊
- 国有林

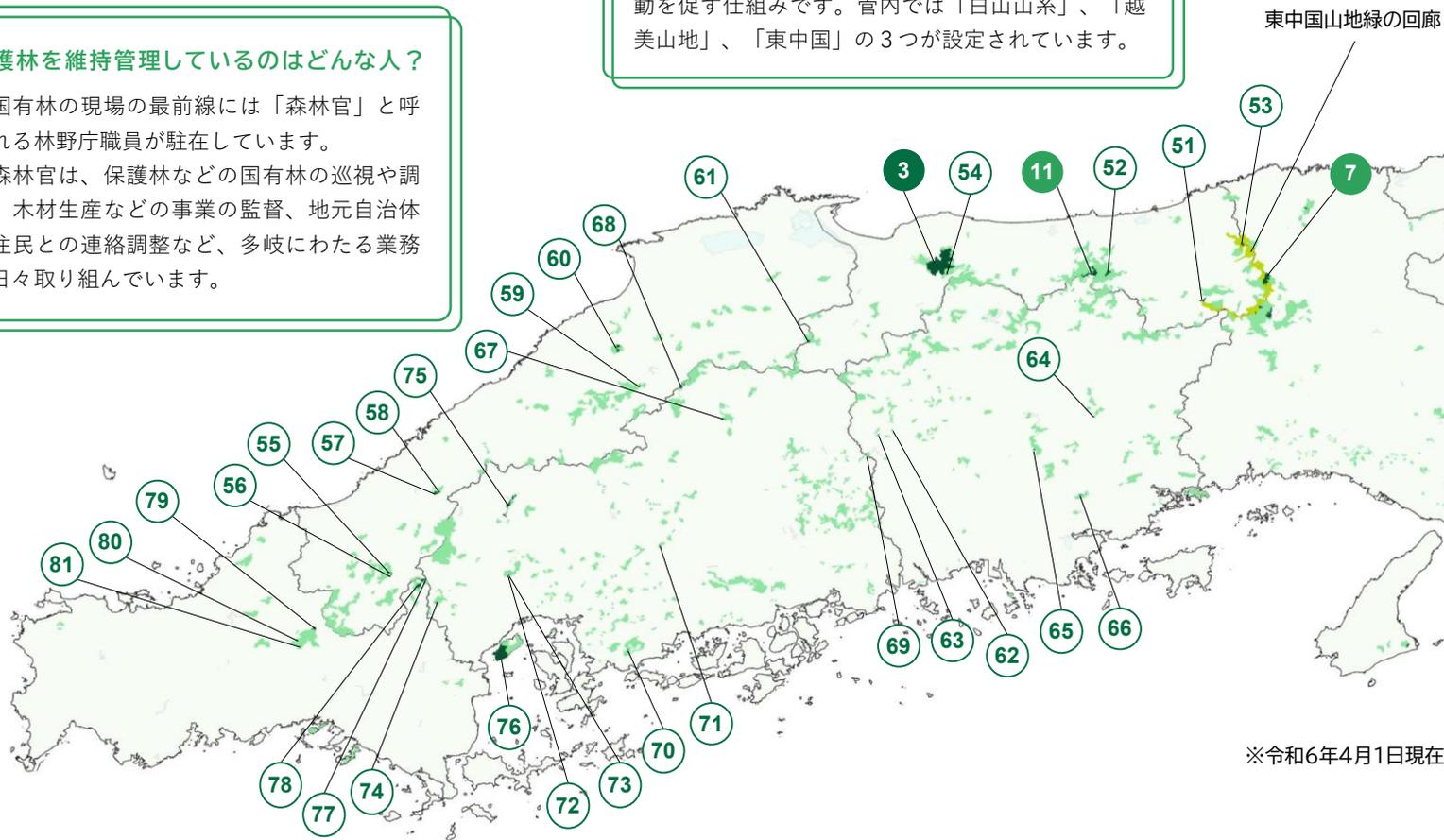
緑の回廊って何ですか？

緑の回廊は「保護林」同士を連結することで森林生態系のネットワークを強化し、野生生物の相互移動を促す仕組みです。管内では「白山山系」、「越美山地」、「東中国」の3つが設定されています。

保護林を維持管理しているのはどんな人？

国有林の現場の最前線には「森林官」と呼ばれる林野庁職員が駐在しています。

森林官は、保護林などの国有林の巡視や調査、木材生産などの事業の監督、地元自治体や住民との連絡調整など、多岐にわたる業務に日々取り組んでいます。



※令和6年4月1日現在

保護林に行ってもいいの？

登山道や遊歩道が整備されている保護林にレクリエーション目的で入林する場合、入林届の提出は不要です（警察等に提出する登山届は別途必要な場合あり）。ただし、入林は自己責任が原則。天候や現地の情報を確認し、体調を整え、十分な装備で入林してください。

森でのマナー

- 悪天候時には滑落、落石、倒木、崩壊等の危険が高まるため、入林を控えましょう
- 火気の取扱いには十分注意をし、ごみは必ず持ち帰りましょう
- 動植物の保護と安全な利用のため、歩道等を外れないようにしましょう（許可なく動植物の捕獲や採取をしないでください）

● 森林生態系保護地域

我が国の気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林を保護・管理

(3) 大山

● 生物群集保護林

地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理

(7) 氷ノ山・三の丸 (11) 三国山

○ 希少個体群保護林

希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護・管理

- (51) 沖ノ山スギ・ブナ・トチノキ等遺伝資源
- (52) 山王谷スギ・ブナ・トチノキ等遺伝資源
- (53) 扇ノ山ブナ
- (54) 西鴨ブナ・ハウチワカエデ遺伝資源
- (55) 高嶺芦谷スギ・ヒノキ・モミ等遺伝資源
- (56) 高嶺芦谷スギ・ブナ・ミズナラ
- (57) 十文字山スギ・イヌブナ・ミズナラ遺伝資源
- (58) 十文字山ブナ・ミズナラ
- (59) 花の谷シャクナゲ
- (60) 三瓶山ブナ・ミズナラ
- (61) 船通山ブナ・ミズナラ・ホオノキ等遺伝資源
- (62) 未光山ケヤキ・イヌシデ・コナラ等遺伝資源
- (63) 天王山ヒメボタル
- (64) 本山モミ・ツガ・クリ等遺伝資源
- (65) 加茂山モミ・ツガ・トチノキ
- (66) 竜ノ口山アラカシ
- (67) 釜ヶ峰アヘマキ・アカマツ遺伝資源
- (68) 指谷山ブナ・コナラ
- (69) 岩見山イワシデ・ケヤキ・ヨコグラノキ等
- (70) 野路山ヨコグラノキ・コバノチョウセンエノキ
- (71) 鷹ノ巣山ブナ・モミ
- (72) 恵下谷山スギ・モミ・ツガ遺伝資源
- (73) 恵下谷山コウヤマキ
- (74) 黒打山スギ・ヒノキ・モミ等遺伝資源
- (75) 榎平山ミズナラ・コナラ
- (76) ミヤジマトンボ
- (77) 寂地山ブナ・スギ
- (78) 右谷山ブナ
- (79) 滑山アカマツ・ブナ・コナラ等遺伝資源
- (80) 滑山アカマツ・モミ・ツガ等遺伝資源
- (81) 滑山モミ

はくさん 白山森林生態系保護地域

白山大汝峰（2,702m）の北側から三方岩岳に至る白山の中枢部に位置する保護林で、低標高域のブナ林、亜高山帯のオオシラビソ・ダケカンバ林、高山帯のハイマツ低木林等、標高の差と変化に富んだ地形を反映した多様で豊かな植生が見られます。また、白山より西方には2,000mを超える山岳がないため、ハイマツやクロユリ、ホシガラスやオコジョ等、この地域を分布の西限や南限とする数多くの野生動植物が生息・生育しています。



景観と植生 〈No.1～4〉

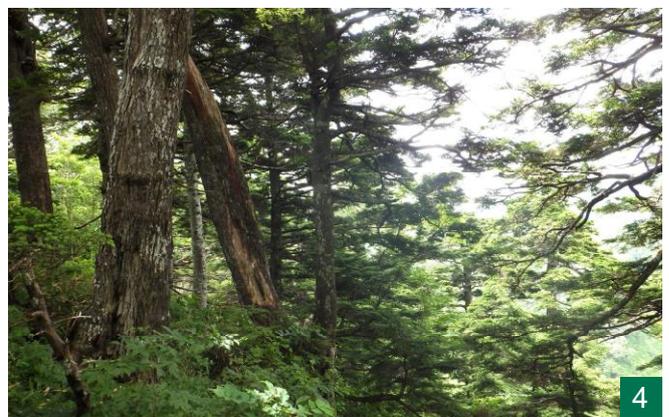
高標高地には、真夏でも雪が残る雪渓(1)や、夏にはお花畑になる高茎草原と分布西限のハイマツ林のグラデーション(2)が見られる。標高1,600m以下にはブナ林(3)、それより上にはオオシラビソ林、コメツガ林等の亜高山帯針葉樹林(4)が広がる。

動物 〈No.5、6〉

ハイマツの実を主食とするホシガラス(5)や、準絶滅危惧種のホンドオコジョ(6)が見られることも。

植物 〈No.7、8〉

日本海側の高山帯に分布するハクサンコザクラ(7)や、北海道・本州・四国の亜高山帯～高山帯に分布するハクサンシャクナゲ(8)など、白山で発見され、白山を名前の由来とする植物も多い。



おおすぎだに

大杉谷森林生態系保護地域

三重県最高峰・大台ヶ原山（日出ヶ岳1,695m）の北東部に位置し、近畿随一の秘境と言われる大杉谷。周辺は日本有数の多雨地帯で、激しい浸食作用により地形は険しく複雑で、谷はV字に切れ込み大小様々な滝が見られます。独特の気候や変化に富んだ地形等により植物相が多様で、特に、低標高域の常緑広葉樹林から高標高域の亜高山帯針葉樹林までの垂直分布が原生的な状態で広く保存されている点は、学術的にも高く評価されています。



景観と植生 〈No.1、4、5〉

巨大な滝つぼを持つ落差20m余りの水量豊かな堂倉滝(1)。滝の先には林道へ至る急坂が待っている。大台ヶ原ビジターセンターのある標高1,570m付近は冷温帯から亜高山帯への移行帯で、ブナとトウヒの針広混交林(4)が見られる。6~7月頃、溪流に彩を添えるサツキ(5)。

森林被害対策 〈No.2、3〉

笹原の中に立ち枯れたトウヒが目立つ大台ヶ原付近の状況(2)。ニホンジカによる食害が森林衰退の一因とされ、ボランティアの協力も得て、トウヒの稚樹などを守る植生保護柵を設置している(3)。

動物 〈No.6、7〉

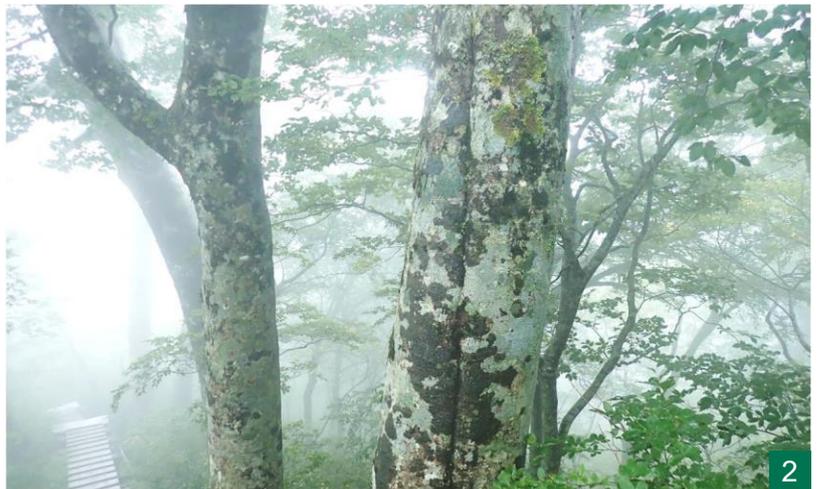
三重県の絶滅危惧Ⅱ類等に指定されているオオダイガハラサンショウウオ(6)、特別天然記念物のニホンカモシカ(7)等、山岳地帯の限られた地域のみ分布する貴重な種が数多く生息する。



※6の写真は幼体。

だいせん 大山森林生態系保護地域

中国地方最高峰の大山（1,729m）は独立峰で、その姿は見る方角により印象を変え、伯耆（ほうき）富士と呼ばれる穏やかな山容から厳しい断崖絶壁まで様々な表情を見せてくれます。地質や気候条件からなる特有の生態系が、近世までの厳格な入山制限により保存されてきました。山頂部のキャラボク純林から山腹のブナ天然林までの連続した垂直分布や、崩壊地植生の遷移系列が見られるなど、学術的にも極めて価値の高い保護林です。



景観と植生 〈No.1～5〉

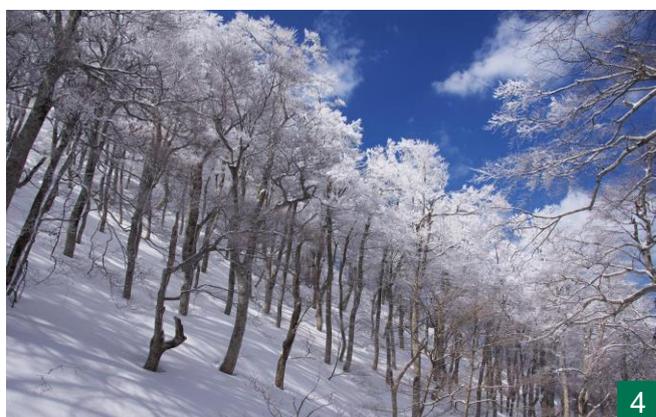
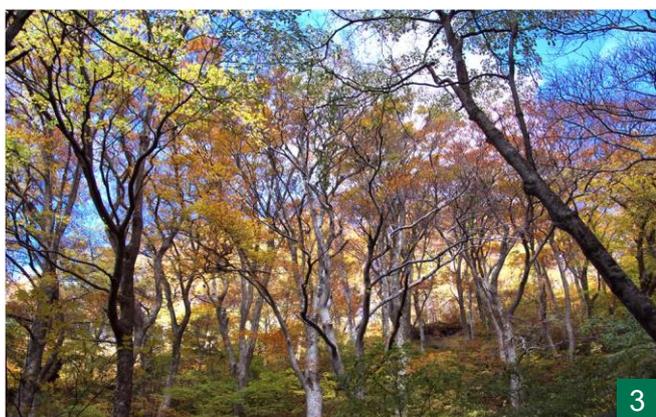
美しき早春の伯耆富士(1)。霧が立ち込む幻想的な夏(2)、紅葉最盛期(3)、厳冬期(4)と変化に富むブナ林。夏になるとナンゴククガイソウやシモツケソウなどが咲き乱れるユートピアのお花畑(5)。

行事 〈No.6〉

夏山開きの前夜に安全祈願のたいまつ行列が行われ、大山寺参道は荘厳な雰囲気包まれる。

植物 〈No.7、8〉

6合目以上の開けた場所に見られるダイセンキスミレ(7)や、8合目付近から頂上にかけて群落をなすダイセンキャラボク(8)など、大山を名前に冠する植物も多い。ダイセンキャラボク群落は、分布の南西限でありながら日本最大規模を誇り、特別天然記念物に指定されている。



ひょうのせん さんのまる
氷ノ山・三の丸生物群集保護林

中国地方第二の高峰・氷ノ山（1,510m）の東斜面に位置する保護林で、兵庫県下最大とされるブナ天然林の多様で豊かな植生に支えられ、イヌワシをはじめとする数多くの野生動物が生息しています。複数の登山コースが整備されていることに加え、西日本では貴重な樹氷の鑑賞スポットとしても知られ、初心者から上級者まで、四季を通じて多くの登山客で賑わいます。



景観と植生 〈No.1、2〉

頂上付近は風衝地となるため、植生はブナ林から矮小化したスギやササ草原に変わり、キャラボクもまばらに見られる(1)。登山道沿いにはブナの巨木が林立し、林床には背の高いチシマザサが密生する(2)。



保護林と自然公園

保護林は法律での規定はなく、林野庁独自の制度によって設定されますが、自然公園は法律により定められ、指定されます。

近畿中国森林管理局管内には、白山(白山国立公園)や大山(大山隠岐国立公園)など、自然公園と重複する保護林も多数あります。

保護林の看板

保護林の入口付近には、広く一般に保護林の存在や役割を周知するための看板を設置しています。看板には保護林の名称や設定目的などを記していますが、なかには、文面や素材に工夫が凝らされている看板も。

皆さんも一度、山で保護林の看板を探してみてください。



保護林を守る

近年、保護林においてもニホンジカの増加による植生被害が増えています。保護林内には、分布限界の個体群や地域固有の希少植物などが多く含まれるので、地域的な絶滅も心配されています。

そこで、職員だけでなく外部の方の手も借りつつ、防護柵の設置等の対策を行い、保護林の植生を守っています。

やしゃがいけ 夜叉ヶ池ヤシャゲンゴロウ希少個体群保護林

夜叉ヶ池（標高1,099m）は周囲230mほどの小さな池で、登山口から自然林の中を2時間半ほど登った先に現れる山上の別天地。この清らかな池は流入・流出河川がなく、雨水と周囲のブナ林への湧水とのバランスで成り立っています。また、保護名にもなっている「ヤシャゲンゴロウ」は、全世界でこの夜叉ヶ池のみに生息する貴重な昆虫です。



ブナ林に囲まれた夜叉ヶ池。池の周囲には木道が整備されているので、マナーを守って散策を楽しみたい。



ヤシャゲンゴロウは体長約15mm。国内希少野生動植物種に指定され保護されている。

みくにやま 三国山湿原植物希少個体群保護林

滋賀・福井県境に位置する三国山（876m）の南東に広がる高層湿原が主体の保護林。湿原の周囲にはブナやスギの天然林が生育し、シーズンには、湿原に延びる木道上からここを分布の西限とするキンコウカの群落を間近に楽しむことができます。晴れて空気の澄んだ日には、湿原付近の登山道上から遠く琵琶湖まで見渡すことができます。



木道上からキンコウカ越しに望むマキノ町の山並。



ユリ科キンコウカ属の多年草で本州の亜高山帯に多く分布し、6月下旬から7月中旬にかけて開花する。

だいひざん 大悲山モミ希少個体群保護林

懸崖造りの本堂が有名な峰定寺の南側山域の尾根伝いに設定された保護林。この尾根はちしょろ尾根古道と呼ばれ、歩道と階段が整備されています。モミ・ヒノキ・スギ・ツガなどの大径の針葉樹を主体とする針広混交林で、保護林のすぐ近くには日本一の樹高（62.3m）を誇る「花背の三本杉」が鎮座しています。



保護林の主要樹種であるモミの大木。すらりと天に向かって伸びる通直な樹形が美しい。



照葉樹林帯からブナ帯への移行帯である中間温帯林がまとまって残る貴重な保護林。

こんごうさん 金剛山ブナ希少個体群保護林

金剛山（1,125m）は奈良県と大阪府の境に連なる金剛生駒連峰の主峰で、四季を通じて多くの登山客に親しまれています。保護林に設定されているのは、山頂西側の転法輪寺や葛木神社周辺の社寺林に連なる自然林で、大阪近郊では希少なブナの天然林。金剛山有数のお花畑が見られる人気の登山コースにもなっています。



金剛山のブナ林は大阪近郊では最大の規模で、直径1mを超える大木に出会えることも。



谷沿いの登山道では、シーズンの5月頃には一面に広がるニリンソウのお花畑が目を楽しませてくれる。

こうやさん 高野山コウヤマキ希少個体群保護林

大正7年に設定された管内最古クラスの保護林で、希少なコウヤマキを主体とする常緑針葉樹林。コウヤマキの名前はこの種が高野山に多いことが由来とされています。材は耐久性・耐水性が高く、古くから伐採が制限され大切に育てられてきた「高野六木（他にヒノキ・スギ・アカマツ・モミ・ツガ）」の一つとしても知られています。



1属1種の日本固有種で生きた化石とも呼ばれるコウヤマキ。面積約30haの純林は、国内最大規模とされる。



幹周6m・樹高52mの巨大なスギが保護林内にあり、シンボルの一つになっている。

さんべさん 三瓶山ブナ・ミズナラ希少個体群保護林

島根県中央部に位置する三瓶山は火山活動で形成された独立峰で、男三瓶山（1,126m）を最高峰とする6つの峰で構成されています。すそ野に広がる草地景観は、かつて牛の放牧が盛んな時代には山頂付近まで及びました。また、カルデラの内部や、保護林に設定されている北斜面にはブナなどの貴重な自然林が残り、国の天然記念物にも指定されています。



室の内池は火口湖で、周囲にはミズナラを主体とする天然林が広がり、希少なカシワ林も見られる。



保護林の標高800mを超える区域にはブナ林が残り、それより下はシデ林が主体となっている。

てんのうやま 天王山ヒメボタル希少個体群保護林

神社の境内地を取り囲むヒノキなどの針葉樹が植えられた保護林にヒメボタル（通称：金ボタル）が生息しています。岡山県の天然記念物に指定されている「金ボタル生息地」は境内地の方で、保護林には境内地を守る緩衝帯の役割などが求められています。貴重な生息地を次世代に引き継ぐため、地元の保護団体や小学生らが保護活動を行っています。



小型の陸生ホタルで、7月頃の約10日間という短い期間に、雄だけが飛翔し、短い明滅を繰り返しながら乱舞する。



ホタルの生息には適度に下層植生が発達した森林が良いとされ、森林整備を実施した。

かまがみね 釜ヶ峰アベマキ・アカマツ遺伝資源希少個体群保護林

全国的にも珍しいアベマキの純林で、樹齢140年を超えるアベマキの巨木が林立する様は圧巻。保護林のある広島県庄原市口和町の一帯では、かつて、コルクの原料になるアベマキ樹皮の生産が盛んでした。この保護林は優良な種子を採取するための母樹林として戦前から守られ、コルク産業の歴史の生き証人として現在まで保存されています。



近年はナラ枯れによってアベマキが枯れているため、シートを巻いて被害の予防に取り組んでいる。



毎年、地元の小学生を対象に森林教室を開き、学習の場としても役立てられている。

たかのすやま 鷹ノ巣山ブナ・モミ希少個体群保護林

広島県のほぼ中央に位置する鷹ノ巣山（922m）は、頂上からの展望の良さや冬の雲海が人気の登山スポットで、晴れて空気の澄んだ日には遠く瀬戸内海の島々まで見渡すことができます。保護林に設定されているのは、山頂東側斜面にわずかに残されたブナやモミの天然林（約4ha）で、広島県のブナの南限地の一つとされる貴重な林です。



ブナとモミが主体の混交林。モミは健全に生育しているものの、ブナは後継樹が確認されず存続が危ぶまれている。



ブナは大木も多く、登山者を温かく見守るように葉を広げている。

なめらやま 滑山アカマツ・ブナ・コナラ等遺伝資源希少個体群保護林

昭和30～40年代にかけて、滑山国有林一帯から銘木「滑マツ」が多く生産されました。現在は、標高800～900m付近の尾根を中心に数十本の滑マツが残存するのみとなっています。保護林内では、アカマツの稚樹周辺のササの刈払いなど、次世代の滑マツを育成するための取組を行っています。



樹齢200年、直径60cmを超えるアカマツのみが滑マツと呼ばれ、皇居や錦帯橋にも使用された。



保護林上部に残るブナを主体とする天然林は、本州最西端のブナ林とされ、登山道沿いで見ることができる。

Message

国土のおよそ7割が森林である日本。
森林には、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化の防止など
多くの多面的機能が存在しています。

原生的な森林生態系からなる自然環境の維持や野生生物や遺伝資源の保護は、
優美な自然を次世代に残すことに加えて、
生物多様性の保全にも貢献するものです。

一方、生物多様性の損失は深刻化しつつあります。
2030年までにこれを食い止めるべく、G7サミットで目標が立てられるなど
国際的にも生物多様性保全の重要性は高まっています。

私たちの身近にある森林を適切に管理し、
保護し、森林生態系のバランスを維持することは
巡り巡って私たちの暮らしに恵みを与えてくれます。
このミニガイドが、保護林を知るきっかけになれたのなら喜ばしい限りです。



保護林に関する情報は、
近畿中国森林管理局ホームページにも掲載しています。

[https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/keikaku/shinrin_keikaku/
protected_cloister/protected/index.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/keikaku/shinrin_keikaku/protected_cloister/protected/index.html)

ホームページは
こちら ▶



発行元 / お問い合わせ先

林野庁 近畿中国森林管理局 計画保全部 計画課

住所: 〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋1丁目8番75号

TEL: 06-6881-3557

[裏表紙写真]

左上: クルマユリ (白山森林生態系保護地域)

右上: サツキ (大杉谷森林生態系保護地域)

左下: ヤマガラ (大杉谷森林生態系保護地域)

右下: タニウツギ (大山森林生態系保護地域)

[表表紙写真] 大山森林生態系保護地域

※本冊子の内容は令和6年4月1日時点の情報に基づいています